みつめよう 少年たちの未来

非行と家出の防止

三月は〝節目〟の月。進学や就職を目前にした少年たち、また、この時期に転勤をする父親などもいて、ふだんとは違ったあわただしさがあります。進級、卒業、友人との別れ、新しい環境への期待と不安……。少年たちの心は揺れ動いています。そして、毎年この時期になると、非行や家出が多くなります。

現実からの逃避

非行に走ったり、家出をした少年や少女に総じて言えることは、彼らが「現実から何らかの理由で逃避しようとした」ということです。

「いざこざの絶えない家庭」「不快な学校生活」「たいくつな毎日」……自分たちがとらえたそんな〝現実〟に対して、彼らは「面白くない」「ムカつく」と自らを非行に駆り立ててしまうのです。

子供だけの責任か

彼らは神経が過敏で、〝心の弱い〟人間がほとんどです。

しかし〝本人の心の問題〟と突き放してしまっていいものではありません。

子供たちの心をねじ曲げてしまう責任の一端は、わたくしたち大人にもあるのですから。

欲しいから盗む

デパートやスーパーで万引きをしたり、自転車やオートバイを盗むと言ったことの動機で、一番多いのは、「欲しかったから」という単純な利欲によるもので、次いで「好奇心」「スリルを味わう」の順になっています。補導された少年少女の六割がこの万引きや盗みによるものです。

放任・過干渉

先生や友達をなぐる、教室の窓などを壊す——校内暴力の約九割が中学校で起きています。

また、教師に対する暴力事件のうち、検察官に送られた少年の約七割の保護者は、自分の子供を放任しています。

一方、家庭内暴力の被害者は六割が母親で、過半数の人が子供に対し「過保護」「過干渉」「でき愛」という結果です。

薬物・性非行

シンナー、接着剤、トルエンなどの薬物乱用で補導された少年は年間五万人にものぼり、その動機は「好奇心から」が七割を占めています。

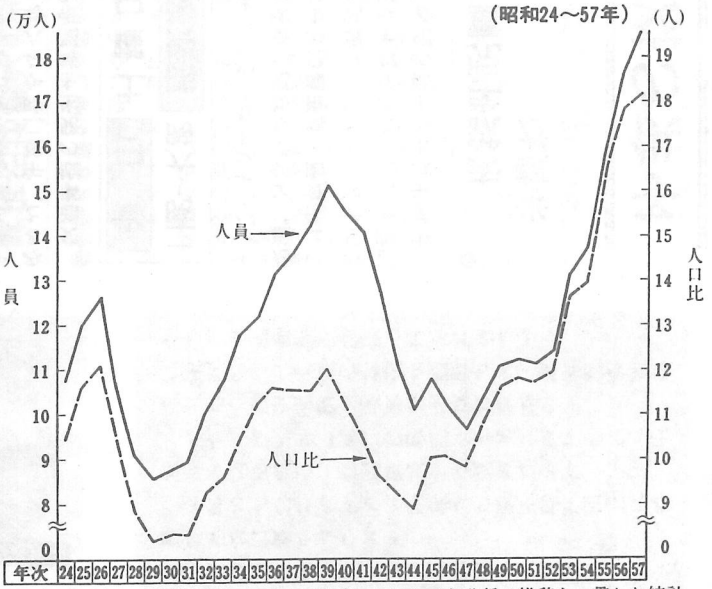
また性非行で補導された女子については「好奇心」「金欲しさ」が多く、「自暴自棄」も少なくありません。

トラブルから逃れる

また警察が保護した家出少年は年間五万七千人。そのうち四割を中学生が占め、その多くが「学校や家庭でのトラブル」を動機にしています。

（数字は五十七年度統計）

刑法犯少年のうち主要刑法犯で補導したものの人員、人口比の推移



注）主要刑法犯の統計を用いたのは、戦後における少年非行の推移を一貫した統計によってとらえるためである。〈資料〉警察庁「昭和58年版警察白書」

日常生活でわかる非行の芽 こんなときは 赤信号！

▼顔色が悪く、食欲がない。
▼服装・頭髪・化粧が派手になる。
▼変な友達や異性が尋ねてきたり、電話がかかる。
▼夜間外出、外泊が多くなる。
▼言葉が乱暴になり、ウソをつく。
▼学校や仕事をさぼる。
▼金づかいが荒くなる。

非行と家出の防止法
——家庭での心くばり

▽悩みをいつでも気軽に話し合える雰囲気をつくる。
▽社会生活での困難や苦しみに耐える心を育てる。
▽万一失敗があった時は、早く挫折感を取り除いてやる。
▽非行や家出があったときは早く警察などに相談する。